

アジア・ユースキャンプ 2019 参加報告



Fostering Our Shared Well-Being :
Empowering the Asia-Pacific Youth towards Common Actions

つながりあういのちへの目覚めと実践 :

共通の行動に向けたアジア太平洋諸宗教青年の強化

2019年11月26日～30日

フィリピン/マニラ

2019年11月26日～30日までフィリピンマニラで第6回 Asia Interfaith Youth Peace Camp（アジア・諸宗教ユースキャンプ）が行われました。

アジア・ユースキャンプは2014年のアジア宗教者平和会議 第8回インチョン大会の青年事前大会から始まりました。毎年、気候変動や紛争解決などをテーマとし、私たちの生活や未来を脅かす諸問題に対し、宗教青年リーダーがどのように課題解決に臨むかを議論し、国際的な諸課題に対しての行動計画が検討される場となっています。また、多文化・多宗教の青年が一堂に会し、違いを知り、違いを受け入れ、共通の未来のためにも行動することを約束する機会でもあります。

第6回アジア・ユースキャンプでは、Fostering Our Shared Well-Being : Empowering the Asia-Pacific Youth towards Common Actions（つながりあういのちへの目覚めと実践：共通の行動に向けたアジア太平洋諸宗教青年の強化）をテーマに掲げ、信仰の自由や紛争変容、公正で調和の取れた社会、持続可能で統合的な開発、地球の保護などの課題をについてアジア・太平洋地域21ヶ国から集まった約70名の青年同士が議論を深めました。

本キャンプでは6つの目的が掲げられました。

- 1) 宗教の多様性を尊重し、受容と協調の精神を深める。
- 2) 共通の未来を脅かす諸課題を明らかにする。
- 3) アジア・太平洋地域や国内、地域コミュニティ内のプロジェクトやプログラムを開発する。
- 4) 様々なプロジェクトやプログラムを実践するためのスキルや知識を得る。
- 5) アジア、太平洋諸宗教青年ネットワークを強化する。
- 6) 他者や地球に対する慈しみの実践を行うための責任感を高める。

今回、アジア宗教者平和会議東京から、神谷昌道（ACRP シニアアドバイザー）と出射見奈子（ACRP 事務局員）2名がオブザーバーとして参加しました。

5 日間のプログラム概要は以下の通りです。

25 Nov 2019 MONDAY	26 Nov 2019 TUESDAY	27 Nov 2019 WEDNESDAY	28 Nov 2019 THURSDAY	29 Nov 2019 FRIDAY	30 Nov 2019 SATURDAY
(MORNING) ARRIVAL OF APIYN OFFICERS	(WHOLE DAY) ARRIVAL OF DELEGATES, SPEAKERS, AND ACRP & SPEC OFFICIALS	06:00 BREAKFAST 07:00 DEPARTURE	07:00 BREAKFAST	05:00 BREAKFAST 06:00 DEPARTURE	07:00 BREAKFAST
	(WHOLE DAY) REGISTRATION (HOTEL LOBBY)	08:00 OPENING CEREMONY	08:00 WORKSHOP 1	09:00 FIELD WORKSHOP	08:00 APIYN BUSINESS MEETING
		10:30 PLENARY SESSION 1	10:30 WORKSHOP 2		08:30 WORKSHOP 5
		13:30 PLENARY SESSION 2	13:00 WORKSHOP 3	13:00 VISIT TO RELIGIOUS & HISTORIC SITES	11:00 CLOSING CEREMONY
	15:00 STEERING COMM MEETING	15:00 CULTURAL EXCHANGE	16:30 WORKSHOP 4		AFTERNOON CHECK-OUT & DEPARTURE OF DELEGATES
16:00 APIYN OFFICERS' WORKSHOP & BUSINESS MEETING (CLOSED SESSION)	17:30 APIYN BUSINESS MEETING	18:00 FELLOWSHIP DINNER	20:00 DINNER STATEMENT COMMITTEE MEETING	19:00 FAREWELL DINNER & SOCIALS NIGHT	
	19:00 ORIENTATION WELCOME DINNER				

Steering Committee Meeting : 運営委員会 / Plenary Session : 全体会議 / Statement Committee Meeting : 声明
文委員会

<代表委員会による活動報告>

本キャンプ冒頭の APIYN Business Meeting (11月26日 17:30~) では、主催者から本キャンプの概要と目的が参加者へ説明されました。その後、参加国を代表して 5 カ国の委員会から各国での活動報告がありました。発表したのはインド委員会、ミャンマー委員会、モンゴル委員会、フィリピン委員会、バングラデシュ委員会です。各国で取り組む気候変動プロジェクトや植樹プロジェクト、人間の尊厳を訴えるプロジェクトについて発表する姿に、参加者も真剣な眼差しで聞いていました。



26日 APIYN Business Meeting の様子



インド委員会青年による発表



ミャンマー委員会青年による発表



モンゴル委員会青年による発表



バングラデシュ委員会青年による発表

APIYN ビジネス会議後は歓迎夕食会が開かれ、それぞれグループに分かれて自己紹介やゲームをするなど親交を深めました。初めは緊張していた参加者ですがすぐに打ち解け、それぞれのテーブルから笑い声が絶えない楽しい時間を過ごしました。



歓迎挨拶



歓迎挨拶



ボランティア紹介



アイスブレイク



夕食時



グループ写真

<University of Santo Tomas での全体会議>

2日目は終日、University of Santo Tomas にてプログラムが行われました。University Santo Tomas は 1611 年に教職者の育成のためにカトリック大学として設立され、現存する大学の中ではアジア最古での大学です。私たちはこの日、午前中に全体会を行い、午後からキャンパスツアーを行いました。



University Santo Tomas

大学での全大会は、5 人参加者による平和の祈りから始まりました。キリスト教、仏教、イスラム教、ヒンズー教、ユダヤ教の平和の祈りを参加者一同静かに聞き入りました。

<開会式>

開会式では Rev. Fr. Pabio Tiong より歓迎の挨拶、Hon. Secretary Abdullah Dabs Mamaro より基調講演、Dr. Lilian Sison（フィリピン委員会事務総長）Rev. Tae-sung Kim（韓国委員会事務総長）神谷昌道シニアアドバイザーより祝辞を賜りました。Religions for Peace の杉野副事務総長からもビデオメッセージが寄せられ、RfP ユースメンバーは RfPムーブメントの中心的存在であると激励の言葉を頂きました。さらに Rev. Tae-sung Kim はこのキャンプは青年が平和活動を行っていくための重要な役割を果たしていると強調され、青年がこれまでに平和活動へ貢献してきたことを賞賛されました。神谷シニアアドバイザーは、参加した全青年に向け「青年は現在の希望です。未来ではなく今現在の世界のピースメーカーであることに気づき、互いに手を取り合いながらより良い現在と未来のため行動を起し欲しい。未来を待つのではなく今こそ立ち上がって欲しい。」と力強い言葉を送りました。



左) 神谷シニアアドバイザー

右) Rev. Tae-sung Kim

続く全体会議 1、2 では二人のフィリピン青年活動家と APIYN 青年リーダー4名の発表を聞きました。セッション 1、2 の登壇者は以下の通りです。



Plenary Session1

Plenary Seesion1	
名前 (国)	役職
Dr. Raymond John Nagui	National Chairperson, Youth for Mental Health Condition
Mr. Amiel Jay Lopez	Academic Fellow, Young Southeast Asian Leaders Initiative

Plenary Session2	
名前 (国)	役職
齋藤 侑助 (日本)	Member of Religions for Peace International Youth Committee
Ms. Gasun Han (大韓民国)	Co-Moderator of Asia & the Pacific Interfaith Youth Network
Rabbi Rachel Rosenbluth (イスラエル)	Program Director of Achvat Amim Ruchani
Mr. Shameer Rishad (インド)	Chair of Youth Committee Religions for Peace India
Mr. Renz Christian Argao (フィリピン)	Coordinator, International Youth Committee Co-Moderator of the Religions for Peace Asia & the Pacific Interfaith Youth Network.

ここでは発題者の経験や活動報告を聞くことにより、青年一人ひとりが自らの中に眠る「つながり合ういのち」の重要性に気づき、今後どのような行動を起していけるかを考える時間となりました。発表者の一人である Mr. Amiel Jay Lopez は、発表冒頭に「2040年の地球は一体どうなっているだろうか」と問いかけました。現在深刻な問題となっている地球温暖化や環境破壊をテーマにし、私たち青年が、世界的危機を救うために共に立ち上がるこ

とが重要であると訴えました。Lopez氏は、「WOW」という驚きの感覚と「WONDER」という疑問を持つ感覚が私たちの行動と努力の出発点になると強調しました。

セッション 2 での平和活動体験報告では「平和は一人では出来ない。しかし一人が始めなければ何も出来ない」、「互いに繋がるのが、信じあい理解し合うことに繋がる」という言葉が印象的でした。彼らの話で共通して言えることは、「約束」、「責任」、「連携」、「違いを尊重する」、「多様性の価値」です。それらは非常に重要な要素であり、本キャンプのテーマに一致した発表でした。代表者による平和活動報告は、国や宗教的背景が違っていても、平和を目指す青年として非常に刺激になる発表でした。



Plenary Session2



Plenary Session2

<ワークショップ>

宿泊ホテルの会場で終日グループに分かれたワークショップを行いました。1~4のワークショップにそれぞれファシリテーターが付き、キャンプテーマに基づく内容でグループワークを行いました。

ワークショップのテーマは以下の通りです。

	テーマ	ファシリテーター
ワークショップ①	Religious Literacy: Understanding Our Diversity	Mr. Christopher Zefting
ワークショップ②	Diversity and Shared Well-being: Opportunities & Challenges	Mr. Renz Christian Argao
ワークショップ③	Living in Diversity :	Ms. Radia Bakkouch
ワークショップ④	Working with Diversity: Developing Interfaith Projects and Programs	Mr. Takashi Hashimoto Ms. Meera Lwin Mar Oo
ワークショップ⑤ (11月30日実施)	Way Forward: Our Common Actions towards Shared Well-being	Ms. Gasun Han Mr. Shameer Rishad



ワークショップ

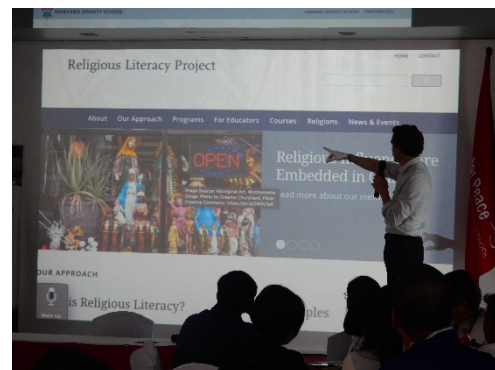
各グループでは、非常に白熱した議論が交わされていました。特に、各宗教リーダーによる社会問題への取り組みを題材にしたケーススタディを読み、自分たちの宗教コミュニティに置き換えて議論をするワークショップでは、自国の問題を取り上げ、宗教リーダーの役割について意見交換をしました。また、自分たちで宗教コミュニティを作るとしたらどのようなコミュニティにするかというワークショップでも、自国の社会問題をベースに、どうし

たら弱者や少数派の人々を救えるかということに重きを置いた議論になりました。各ワークショップではグループ発表がありました。白熱した議論が各グループで繰り広げられ、発表準備の時間がなくなるほど続きました。

これらのワークショップを通じて、私たちはそれぞれの国で起きている社会問題を知ることの他に、課題解決に向けて取り組んでいる共通点や相違点を沢山見出すことが出来ました。また、お互いの気持ちを共有し、他国で起きている問題を他人事せず、どうしたら共に解決できるかを考え、悩む気持ちが育まれました。

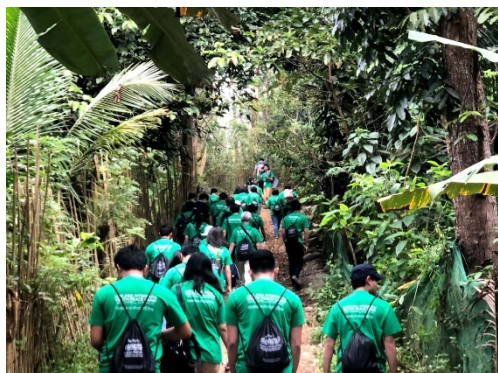


ワークショップ



ワークショップ

<フィールドワーク>



Dumagat Community

キャンプ4日目の早朝。私たちは6時にホテルを出発し、約3時間かけてサントトマス大学と深く関わりのある **Dumagat Community** を訪問しました。そこで、フィリピンの先住民族として長くこの地で生活している人たちと出会いました。この土地には沢山の木が生え、人と自然が一体となり生活していました。話を伺った **Brother Martin Francisco** は23年間、キリスト教精神に基づきこの地に住む人々に寄り添いながら彼らの衣食住だけでなく先住民族を保護するために法的側面からの支援にも力を入れています。サントトマス大学も、彼らと共に **Dumagat Community** の支援を行っているなど強いパートナーシップがあるそうです。もとも先住民族の人々が生活していた土地でしたが、第二次世界大戦で日本軍が基地として利用していたため、山の奥には沢山の洞窟穴がありました。30分かけて洞窟を探検すると、至るところにキリストの像が祭られていました。また、コミュニティの子供たちは洞窟を日常の遊び場として利用していました。日本軍が身を守るために隠れていた洞窟が、今では子ども達の絶好の遊び場となっていると聞き、この村に住に流れる平和な時間を感じることが出来ました。



Dumagat Community の洞窟



Brother Martin Francisco

残念ながら、予定していた植樹や木の手入れは時期が合わず実施が出来ませんでした。コミュニティに住む子どもたちと交流したり、**Brother Martin Francisco** からコミュニティについて聞けるなど貴重なフィールドワーク体験となりました。



Dumagat Community に住む子供たち



参加者で昼食の準備

<6つの目的を通したキャンプの総括>

本キャンプでは6つの目的が掲げられましたが、改めてここで6つの目的を示したいと思います。

- 1) 宗教の多様性を尊重し、受容と協調の精神を深める。
- 2) 共通の未来を脅かす諸課題を明らかにする。
- 3) アジア・太平洋地域や国内、地域コミュニティ内のプロジェクトやプログラムを開発する。
- 4) 様々なプロジェクトやプログラムを実践するためのスキルや知識を得る。
- 5) アジア、太平洋諸宗教青年ネットワークを強化する。
- 6) 他者や地球に対する慈しみの実践を行うための責任感を高める。

本キャンプの総括として、上記6つの目的をどれだけ一人ひとりが達成できたかということに注目することが大切です。結論から述べると、一部を除き目的を達成できたキャンプだと言えます。その理由は以下の2点が挙げられます。

◆ 既に達成している、達成できる素質を持った青年リーダーが集まっている。

目的1、2、5、6については、すでに達成していると言えます。本キャンプでは、異なる宗教を尊重しながら他者を受入れ（目的1）、世界の諸問題に目を向け（目的2）共に行動できる（目的3）素質を持った青年リーダーが集まっていることが証明されました。参加者一人ひとりの積極性、行動力、協調性は高く評価できると言えます。全てのワークショップで発表があり、グループワークで話し合われた内容を会場で共有することで課題を明らかにすることができました。今回、インターネットや報道だけでは知ることができない他国に関する「生の声」を青年から聞くことが出来ました。本キャンプでは必ず発表する時間が設けられ、自分たちが感じたことを共有する時間がありました。一人ひとりに与えられた発表時間は短かったですが、全員が抱える問題や感想を共有し、共に行動する道を探ることができ

ました。そのような理由から、目的 1、2、5、6 は達成出来ている、達成できる可能性が非常に高いと言えます。

◆ **短期間で達成できる目的ではない。**

目的 3、4 については、キャンプ実施期間内で達成できる内容ではありません。このキャンプをきっかけとし、行動していくことが青年に求められているのではないのでしょうか。本キャンプで議論した内容をどのように自国に戻ったときに反映させていくか、自国の青年ネットワークの構築を図ることも重要な課題となるでしょう。また、実際にキャンプで挙げられた問題に直面している人々に出会ったとき、どのように手を差し伸べていくかが次の私たち青年の課題です。このキャンプで沢山のヒントを得た青年たちの次のステップは、目的 3、4 を達成するために行動を起していくことではないのでしょうか。

以上のことから、6 つの目的は一部を除き達成できたキャンプとなりました。未達成のものに関しては、青年に大きな可能性と期待が込められており、今後さらに青年が進化していくための要素となっています。

<おわりに>

今回のキャンプを通して、アジア太平洋地域の諸宗教青年リーダー一人ひとりが持つ「強さ」を感じることができました。彼らは他者が抱える問題を自分の課題として捉え、他人の痛みを自分の痛みとして感じるすることができます。一人では解決できない問題も、仲間同士で話し合うことで想像をはるかに超えた解決方法が生まれることにも気づきました。初めは手探りの会話から始まったキャンプでしたが、最終日は、一つの家族となり互いの今後の健闘をたたえ合っている姿が印象的でした。総括でも述べたように、本キャンプで話し合われた内容を自国や所属するコミュニティに戻ったときにどのように反映させていくか、実際に挙げられた問題に直面している人々に出会ったとき、どのように手を差し伸べていくかが次の私たち青年の課題であると感じました。しかし、彼らなら宗教青年リーダーとして、先人の想像をはるかに超える行動力で世の中を変えてくれると信じています。

最後に、参加者一人ひとりの安全とプログラムが円滑に進むよう寝る暇も惜しんでサポートし続けてくれたフィリピン委員会の青年たちに感謝いたします。また、本キャンプを毎年実施し、アジア太平洋地域の諸宗教青年リーダーの育成に尽力して下さっている韓国宗教者平和会議、受け入れ国であるフィリピン委員会の皆様にも深く感謝いたします。

<参考>

参加者に配られたキャンプキット



環境を意識した食事セット



参加者用の名札とバック



キャンプTシャツ



ハンドブックとメモノート

2014年～2017年までのキャンプ概要

Date	Host Country	Theme
12-15 December 2017	Indonesia	Raising Awareness on Climate Change: Our Earth, Our Responsibility
17-20 November, 2016	Philippines	Responding to the Marginalized Communities' Vulnerability to Climate Change: Strengthening Common Actions and Empowering Asia-Pacific Interfaith Youth Leaders
7-9 December, 2015	Cambodia	Multi-religious Youth Action to Overcome Violent and Non-Violent Religious Extremism
23-25 August, 2014	South Korea	Unity and Harmony in Asia

文責：アジア宗教者平和会議 出射